

「胃底腺型胃癌の臨床病理学的検討に関する多施設共同研究」

福岡赤十字病院では、順天堂大学医学部消化器内科と共同で表記の研究を実施しております。この研究についてご質問などございましたら、最後に記載しております[問い合わせ窓口]までご連絡ください。

[研究概要]

胃底腺型胃癌は2010年に新しい概念として提唱された胃癌の一病型であります。一般的な胃癌がヘリコバクター・ピロリ菌の感染者に多く見られるのに対して、この疾患はヘリコバクター・ピロリ菌未感染の患者にも発生することが知られており、近年増加している可能性が指摘されています。一般的な胃癌よりも悪性度が低く、ゆっくりと発育することが特徴ですが、病気の認識が広がるにつれて最近では悪性度の比較的高いタイプのものも見つかるようになり、病気の性質を明らかにするために、より詳細な研究が必要となっています。今回、多数例での胃底腺型胃癌の臨床病理学的特徴を検討することでこの病気の特徴を解明するとともに、適切な治療法を明らかにすることを目的に本研究を計画しました。

なお、本研究は順天堂大学医学部消化器内科を主研究機関とし、当院をはじめ複数の医療機関との協力のもとで行われます。

[研究の方法]

平成16年1月1日～平成26年12月31日の間に、胃底腺型胃癌と診断された症例を対象とし、内視鏡所見を含めた臨床情報について解析を行います。また、胃底腺型胃癌の治療時に摘出された病変の病理組織の一部は先述の臨床情報とともに順天堂大学医学部消化器内科へ送付され、詳細な病理学的解析が行われます。

[個人情報の保護の方法]

研究の対象となる患者さんの臨床情報や試料をこの研究に使用する際には、どなたのものであるか識別することができないよう氏名など個人が特定される情報は事前に削除したうえで、対応表を作成して管理します(「匿名化」といいます)。また、研究に用いる臨床情報や試料を順天堂大学医学部消化器内科へ送付する際には、当院にて匿名化処理をした後に行いますので、研究の対象となる患者さんを特定できる情報が外部に送られることはありません。

[登録終了後のデータおよび試料の取り扱いについて]

この研究において得られた患者さんの臨床情報等は原則としてこの研究のために使用し、研究終了後は、5年間保存した後、研究用の番号等を消去し、廃棄します。なお、保存した試料や情報を用いて新たな研究を行う際は、研究倫理審査委員会の承認を得た後、情報公開文書を作成し病院のホームページに掲載します。

[研究の公表について]

この研究で得られた知見に基づきその成果が学術目的のため論文や学会等で発表されることがありますが、その際も患者さんの個人情報や、個人を特定できる情報は公表いたしません。

[研究へのデータ使用の取りやめについて]

本研究にデータを用いられたくない場合には、下記[問い合わせ窓口]までご連絡ください。取りやめの希望を受けた場合、それ以降、患者さんのデータは本研究に用いることはありません。

ん。しかしながら同意を取り消した時、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合のように廃棄できない場合もあります。

[問い合わせ窓口]

福岡赤十字病院 消化器内科 平川克哉

連絡先:092-521-1211